

令和8年度第1回 山口大学大学院人間社会科学研究科(修士課程)  
臨床心理学専攻

外国語科目（英語）解答例

掲載にあたって

※試験問題の公開にあたり著作権保護の観点から、問題文を掲載していない場合があります。

※解答例（または出題の意図）についての質問・照会には一切解答いたしません。

※「正解・解答例」については、あくまで解答例を例示したものです。

※一義的な解答が示せない記述の問題については出題意図のみを公表します。

## 1.

- ①システム正当化理論によれば、人々は、自らが依存している社会的、経済的、政治的なシステムを、比較的公正で、正当で、正当化されたものであると見なそうとする動機を持っている。不当な状況によってこれらの動機づけられた知覚が脅かされると、その不当性を合理化するか、あるいは是正することを目指した認知プロセスが引き出される。
- ②要するに、正義の——あるいは、おそらくもっと適切に言えば、正当化の——動機が活性化されるのである。
- ③いくつかの実験において、我々は、「貧しいが幸せ」や「貧しいが正直」といったステレオタイプが、不平等を正当化し、恵まれない人々はそれ相応の埋め合わせとなる報酬を手に行っているという、大切にされているイデオロギー的な仮定を維持する上で、特に有用であるという考えを裏付ける結果を得た。

## 2.

### 問1

- ・一次予防：コミュニティのメンバー全員が処置を受ける予防の形態である。一次予防の例としては、胎児の健康問題のリスクがあるため、すべての妊娠中の女性にタバコとアルコールを避けるよう促すプログラムや、住宅から危険な鉛を含んだ塗料を除去するプログラムなどが挙げられる。
- ・二次予防：より限定的で、特定の障害の発症リスクが高い人々に焦点づけた予防のことである。（ここで言う）リスク要因とは、特定の個人が平均よりも高い確率で障害を発症する可能性を高める社会的、環境的、経済的な脆弱性を指す。
- ・三次予防：既に障害と診断された人々に向けた処置であり、心理療法や生物医学的療法などが含まれる。

### 問2

コミュニティ介入の目的は、個人が何らかの問題に直面していたとしても、通常的生活を継続しやすくすることである。コミュニティ精神保健サービスは、弱い立場にいる人たちが施設や路上に追いやられる可能性を低減するように設計されている。つまりこれらの目的は、リスクの高い人々が自身のコミュニティ内で支援を受けることで、コミュニティ生活への参加を継続できるようにすることであると言える。